

東濃信金、4期ぶり増益

3月期 純利益39%増、17億円

東濃信用金庫(多治見市)が12日発表した2026年3月期決算は、日銀の政策金利の引き上げに伴い貸出金利など資金運用収支が増え、本業の収益力を示すコア業務純益は前期比11・1%増の32億2600万円だった。

純利益は、前期にあった大口の貸出金償却などの与信関連費用が大幅に減少したことから39・1%増の17億円となり、4期ぶりに増益となった。

期末預金残高は個人、法

人向けがともに増加し、0・4%増の1兆2455億円となり、期末ベースで過去最高となった。期末貸出金残高は、トランプ関税や中東情勢の緊迫化などで設備投資を先送りする動きが出たことなどから個人、法人向けともに減少し、2・9%減の5478億円だった。

財務の健全化を示す自己資本比率は、0・7%上昇の18・19%で国内基準の4%を大きく上回り高水準を維持。金融再生法ベースの

不良債権比率は0・15%低下の5・95%となった。
27年3月期末予想は公表していないが、期末預金残高は131億円増の1兆2587億円、期末貸出金残高は51億円増の5529億円を目標としている。